

標 題

実需者から求められる高品質な酒米生産を目指して
(第9回雲南酒米生産者振興大会開催)

(ダイジェスト)

1月27日(土)、雲南圏域が県内一の酒米産地として、率先して品質向上と生産振興を図っていくことを目的に、雲南稲作推進協議会酒米生産部会が第9回雲南酒米生産者振興大会を開催しました。

雲南圏域の酒米生産者79名と関係機関31名(行政、JA、酒造会社等)が一堂に会し、平成30年産以降の「実需者から求められる高品質な酒米生産」の実践に向けて、一層の意識高揚が図られました。

本大会は、雲南圏域(雲南市、奥出雲町、飯南町)が県内の酒米の約8割を生産する産地であることから、県内一の産地として、率先して①品質向上②生産振興を図っていくことを目的に毎年開催されています。

雲南圏域は、良質な酒米産地として評価を受けていますが、平成29年産米(醸造用玄米)の上位等級比率は69.0%(前年産68.0%)となっており、近年、胴割粒などによる格落ちが散見されるなど品質向上対策が必要となっています。

そのような経緯から、島根県農業技術センター栽培研究部作物科高橋科長を講師に酒米の品質向上に向けた研修会が開催されました。研修会では、温暖化の影響やその対策など、生産者と関係機関が酒米の品質向上に向けた理解を深めました。

目指すべき酒米の品質

- ・心白の発現が良好なこと
- ・千粒重が重いこと
- ・粒張り、粒揃いが良いこと
- ・胴割粒等が少ないこと
- ・タンパク含量が低いこと



最後に、大会宣言で以下について、生産者一同で確認しました。

- 関係機関と連携を図り、基本的栽培管理の徹底し、良質な酒米生産を目指すこと。
- 「販売を起点とした米づくり」を実践すること。
- 生産者自ら日本酒のPRを積極的に行うこと。

当普及部では、今後も、生産者組織と関係機関(農業技術センター、JA)と連携を図り、現地栽培試験や研修会などを通じて、雲南圏域の酒米の品質向上と生産振興に向けて支援しています。